

カタール、UAE女性対象 「日本の石油会社の社会的責任(CSR)」コースを開催

1. コースの経緯と概要

昨年に続き、中東の国々から女性が一人で海外の研修に参加するのはまだ難しいこともあり、カタールとUAEから女性だけのカスタマイズド研修の実施要請がありました。要請を受けた研修生の構成は、カタールから2名、UAEから8名で、年齢幅が広くかつ、職務も総務職からエンジニアリング職まで幅の広いものでした。そのため、事務系も技術系にも必要とされる研修内容として「企業の社会的責任(CSR: Corporate Social Responsibility)」を実施することとしました。両国の参加各社が社会的責任を果たしていくために、日本の石油業界等のCSR取り組みを事例として学べるコースを検討しました。日本の石油主要3社のCSRに対する取組の状況やそれぞれの特徴を比較しました。またエンジニアリング会社、自動車会社に分析機器メーカーを加え、社会的責任のもっとも重要な環境管理や地域社会との関係について焦点を当てました。

研修期間は平成25年10月21日(月)から11月1日(金)の12日間で行いました。

2. 研修内容

(1) 日本の石油産業とCSR活動概要

日本の石油輸入の実情、製品の需要の変化と石油会社の実態等日本の石油事情を理解しつつ、本コースの目的である『企業の社会的責任』の目的を理解するため、日本の石油会社が継続して社会に貢献すべく、いかにしてその役割を果たしているかが理解できる内容としました。特に、東日本大震災後の石油を取りまく状況の変化と、石油業界の企業継続に必要な取り組みを説明しました。

(2) 世界のエネルギー事情

エネルギー&イノベーション研究所 前田講師

石油会社でCSRを推進していく上で必要な、世界のエネルギー事情に関する幅広い情報収集・分析と、グローバルな視点からエネルギー業界全体の知識・情報を習得できる講義内容としました。まず、石油を取り巻く様々なエネルギーの実情を解説し、石油の位置づけを明確にし、また石油の将来性と他のエネルギーの将来性との比較と見通しを示し、併せて、福島の実情を詳しく説明するなど、研修生自身が期待していた講義内容となりました。

(3) JX日鉱日石エネルギー(株) 本社、創エネハウス

日本を代表する石油会社としての社会貢献活動に重点を置いたCSR活動を紹介しました。JX本社に勤務する女性スタッフとの交流会では、4グループに分かれて、日本と各国で

の女性の仕事についての共通点・違いなどの意見交換を行い、有意義な時間を過ごすことができました。また、JXが開発している新エネルギー技術を活用した新しい居住環境の提案を組み込んだ創エネハウスでの研修は、女性の視点を考えたプログラムであり、全員が大変興味深く説明に聞き入り数多くの質問を行い、効果的な研修となりました。

(4) 株コスモ総合研究所 本社

コスモ石油が進めているCSR活動並びに継続可能な企業活動についての説明をいただきました。特に社会とのつながりを大切にする様々な取組み、ボランティア活動等の説明でした。さらに、2グループに分けエコノミー、環境、社会の3つのキーワードに関連する企業活動でキーとなるトピックスを抽出するワークショップを行い、理解度の確認を行うことができました。



コスモ総研にて ワークショップ

(5) トヨタ自動車(株) 元町工場、本社

冒頭、主力工場の元町工場の視察を行い、組立工程における色々な改善活動を目の当たりにすることができました。中でも、トヨタが取り組んでいる自動化、カンバン方式、あんどんシステム等の特徴の説明には感銘を受けたようです。さらに、トヨタ総合企画部CSR室からトヨタのCSR活動の詳細についての説明を受けました。関心が高く数多くの質問が出されまし



トヨタ自動車のCSR活動の説明

た。質問の一例をあげると、トヨタのビジネスパートナーとのポリシーや戦略をどのようにして啓蒙し共有化しているか、トヨタのCSRの評価はどのような尺度を使っているか、また、今問題となっている紛争鉱物（Conflict Minerals）問題にどのように対応しているか等、CSRで重要な課題に関するものでした。全ての質問に対して的確で詳細な回答をいただくなど、トヨタが世界のトップ企業であることを認識できる対応でした。

(6) JX 日鉱日石エネルギー(株) 麻里布製油所

冒頭に、ビデオなどで製油所の概要について説明を受け、コンバクトにまとまった製油所の装置群を視察できました。統合計器室では全体ミーティングと安全呼称の実際を体験することができ、特に麻里布製油所の特徴であるニードルコークスのシェアの高さに研修生は驚きを感じていました。さらに、麻里布製油所が取り組む環境活動についての説明では、大気、水質管理の予防保全の実際を学ぶことができました。また安全管理について講義がされ、安全管理システム（SMS）とリスク管理について、麻里布製油所が行っている事例を挙げながら分かり易く解説を受けました。

(7) (株)島津製作所 本社、三条工場

島津製作所は環境測定等について有効な手段である測定器を製作しており、本コースに効果のある研修先であることから選定を行いました。

島津製作所の概要説明に続き、島津製作所が進めているCSR活動について環境管理に重点を置いた説明を受けました。トピックスとしては工場内から出る排水のモニタリングと処理について詳しく説明をうけ、京都市の水質規格の10倍の自社基準に基づき運用がされているその現場を視察できました。また、試験機器の製造現場の視察、各種試験器でのデモによる紹介を受けました。特殊分析機の製造現場で組立ができるのが特定の3名だけであるとの説明に対して、研修生から、その社員をどのようにして他社に抜かれないようにしているかとの質問があり、研修生は、企業のセキュリティ保全に日本の企業がどのようにしているかに強い関心を持っているようです。



島津製作所にて

(8) 日揮(株) 横浜本社

エンジニアリング企業として事業展開の説明の後、同社のCSR活動について、地域貢献活動の一環として進めている地元との協賛事業として、ハンディキャップを持つ方々のMPO

と連携した活動、さらには、日揮が協賛しているMPO アースウォッチ ジャパンの活動について説明がありました。その中で、当該活動に参加した日揮の女子社員の経験談の報告があり、研修生との質疑応答に盛り上がりしました。引き続き、日揮の環境対応事業について、二酸化炭素捕捉、再生可能エネルギー等の環境事業の概要について解説をうけました。



日揮にて

(9) 出光興産(株) 千葉製油所、工場

出光の会社紹介、千葉製油所の紹介、並びに技術研修センターが行っているカタール、オマーンの製油所のオペレーター研修について説明を受けました。製油所の現場の視察では、運転部門の組織と省エネ活動について説明を受けました。また、課員・スタッフの技量をどのようにして把握するかとの質問があり、課員の技量習得表の説明を受けました。また、出光の企業理念とCSR活動について、「人間尊重、製油所・工場の環境との調和について、創業以来貫いてきた活動そのものがCSR活動である」との紹介には、数多くの質疑がされ、関心の高さを示すものとなりました。

9. コースを振り返って

今回各実地研修先で、多国籍の従業員の採用と育成についての質問が多く出されました。この質問から各国での採用と育成における課題と現状がよくわかります。今後の研修テーマや内容の刷新に加味していきたいと考えます。

テーマについては、昨年度に続き依頼先から企業の社会的責任（CSR）の希望を受け、コースの設定を行いました。今回は人事管理、地域連携部門、総務、プロジェクト担当、調達部門、ファイナンス部門、規格戦略担当、環境安全、CSR担当と大変幅広いメンバーでしたが、コース内容に問題を唱えることもなく対応ができたことから、今後ともCSR活動をテーマとするコースを女性対象コースとして各国にアピールできるものと考えます。

研修生のまとめでは、コースの目的を十分に達しえたと考えられるコメントが示されていました。研修参加者は、本コースでの経験を活かし自国、自社でのCSR活動をより良いものにしていきたいとの強い意志を示していました。また、本コースが2年目であるが、昨年度の参加者も含め、よりレベルの高く活動をより確実にしていくために、来年度はさらなる育成を目的とし、実際にCSRを専任とする女性社員を対象とする『Advance CSR』コースの実施を提案したいとのことでした。

(研修部 刀襦 文廣)